

参観日における保護者との懇談について

令和8年2月6日 和田小学校

【A グループ】

(40分授業に関して)

- ・40分授業に対して、教師が年々異動し、入れ替わる中で、対応が可能なのか。
- ・中学校との連携は大丈夫か。
- ・こどもたちの方が順応性はあると思うので、特に心配はしていない。

(合同生活授業を進めるにあたって)

- ・新しい環境の中で、こどもたちがうまくかわられるか、心配はある。
- ・こどもたちが、ゆっくり慣れていくためにも、合同生活授業の期間は、もう少し短くてもいいかもしれない

【B グループ】

- ・新校になった際は、単級になる学年も出てくるが、修学旅行などはどうなるのか。
- ・新しい友との生活に、心配は抱きつつ、より多くのこどもたちと関わることは、こどもにとって良い学習と考えている。
- ・バスのきちんと乗れるかが心配。家を出る時間と学校に着く時間の現状を考えると心配。ちゃんとバスに乗ったことを確認できる手段はないか。
- ・授業が40分になることは心配していないが、どういう学校生活の流れになるのか心配はある。

○再編後の学校において、率直な思い、期待、不安を語っていただいた。

○こどもたちが抱くであろう、不安や悩みを受け止める、私たち職員の意識を高めると共に、全職員で対応するといった、その体制についても重ねてこどもたちに伝え、安心して学校生活を送れるようにしたい。

令和8年2月19日 上村小学校

【A グループ】

- ・前回の説明会に出ていないので聞きたいが、そもそも40分はどういうところから来ているのか。
- ・40分授業でよいと思う。こどもの集中力はそれほど続かない。
- ・日課表を見ると1・2時間目がつながっている。 → 基本は40分2時間だが弾力的な使い方も可
- ・国として目指している方向に先駆けて上村小として取り組んでいこうという捉えでよいか。
- ・変化があっても、こどもたちの方が順応してやっていけると思う。先生方が変わってもできるようにして行ってほしい。先生方がどうなのかというところが大事
- ・中1の子が50分授業は大変といっている(中学は座学が多い)。小中の連携も大事にしてほしい。
- ・特認校児童は遠山中に行くかもしれないし地元の中学に行くかもしれない。中学校にあがった時のギャップは心配もある。
- ・全体の授業時数は変わらないのか。 → 現状はカットした5分ずつの授業時数もどこかでとる。
- ・登校日が増えるということだが、特別日課で保護者が迎えに行くような日が増えると困る。
- ・やってみなければわからない。やってみて考えていけばよい。

【B グループ】

- ・40分授業にすることはいい。でも、夏休みが減ってしまうことはどうかと感じる。学校に行っているのは家庭的に楽ではあるが、こどものために長い夏休みは必要。家族と過ごせる時間を大切にしたい。
- ・早い時間に下校できるのであればそれがいいが、上村小はどうやっても16時37分まで下校できずに学校にいるのだから、こどもたちの気持ちを考えて、夏休みを減らすのではなく、毎週1回7時間授業にして登校日数を減らせるのなら、夏休みを確保してほしい。
- ・前回の保護者説明会では40分授業になることに対してのメリットを感じることができなかった。3月9日の説明会でメリットをより分かりやすく説明してほしい。
- ・授業時数を減らすことはできないのか。国が決めているのか、県が決めているのか。
- ・地域行事を上村小として大事に考えてきたことで授業時数が必要なことは理解できるし、大切に扱ってほしい。でも、同じように家族との時間も大事に考えてほしい。
- ・今年度、「探究の時間」があったが、どのような意図で行われていたのかが、我が子からは伝わってこなかった。40分授業にしてわざわざ時間をつくる「創造の時間」、また、来年度からはじまる「みらい創造科」の意図がわかるようにこどもたちにしてほしい。こどもが理解できていれば、保護者にも伝わってくるので。
- ・先生方は「創造の時間」の意図を理解できているのか。先生たちにもわからない時間になってしまわないか。
- ・「探究の時間」は我が子にも苦しい時間だった。もう少し土台をつくってほしい。例えば、大テーマを決めるとか。「環境」「平和」といったテーマがあって、そこから自分のテーマを決めていけるのがいいのではないかと思う。学校は「探究の時間」にどのぐらいの重きを置いているのか。この「探究の時間」が「創造の時間」になるのか。学校が重きを置いているのであればサポートもしていく。保護者にそのことを伝えてほしい。
- ・学校生活全般において、我が子がとぼけているのかもしれないが「何のために必要で」「何をしているのか」「なんで学ぶのか」こどもたちが理解したうえで学習が進むようにしてほしい。
- ・「創造の時間」が午後の疲れ切った時間帯にあるが、午前中にあった方が集中してできるのではないか（週のうち何回かでも）。
- ・朝の「創造の時間」は何をするのか。
- ・上村小がデジタル教科書に1本化するという話を聞いた。先進国がこどもたちにタブレットを使わせる方向から紙と鉛筆を大事にする方向に戻ってきている中で、紙の教科書を使い、鉛筆を動かすという方法の方が適しているこどもいるので、その子その子にあった対応をお願いしたい。あくまでもデジタル教科書、タブレットは教科書や文具の選択の一つとしての扱いを。

○40分授業のメリットと、それで生み出された「創造の時間」と合わせて、今後も対話や説明をしていきたい。

○小中連携をより見据え、授業のあり方について今後も考えていく必要がある。今後、職員のより深い共通理解を継続しながら、実際のこどもの姿で、こどもたちについて力等を保護者の方と共有していきたい。